

まっしょうけつ  
**放射線被ばくと長期間にわたる末梢血単球の経時的変化：**  
**原爆被爆者の成人健康調査**

原爆被爆者に見られる後期影響（放射線被ばく数十年後に現れる影響）の一つに、体全体の軽度の炎症<sup>\*1</sup>があります。このような軽度の炎症は老化と共に起こることが知られていますが、放射線被ばくに関係して見られる炎症にはどのような細胞や分子が関わっているのか未解明のままです。

この研究は、放影研の研究プログラムである成人健康調査に参加された約 14,000 名の方の長期間にわたる末梢血<sup>\*2</sup>の血液検査データを使用して、放射線被ばくといくつかの種類の白血球（リンパ球、好中球、単球<sup>\*3</sup>）の数および割合の関係を調べたものです。

研究の結果、被ばく放射線量の増加とともに単球の数および割合が増加するという関係がみられました。この結果から、放射線被ばくに伴って末梢血の単球が増えることが、炎症の進行に関わっている可能性が考えられます。

**\*1 炎症：**

生体内の異常を取り除くため、種々の体液成分や白血球などが関与して起こる反応。反応が長引くと生体組織を傷付けることもある。

まっしょうけつ  
**\*2 末梢血：**

腕の血管から採るような、通常の血液のこと。骨髄や脾臓、肝臓などに貯められている血液と区別するためにこのような言い方をします。

**\*3 好中球と単球：**

それぞれ白血球の一種で、細菌やウイルスなどの異物を中に取り込み分解する役割（食用）を果たします。

本資料は、専門家でない方向けに出来るだけわかりやすく解説することを最優先しています。そのため専門的な内容は割愛しており、論文内容を完全に再現しているものではありません。より詳しい内容は出版社の論文をご覧ください。